

西濃圏域10市町合併

「期待」より「不安」が浮き彫り

新市計画住民アンケート調査 中間報告より

合併協議会が6月に行った「新市計画住民アンケート」の結果が、8月の新市建設小委員会で報告されました。アンケートは30000人を対象にし、回収数は15396枚で51%の回収率でした。このアンケートは合併を前提としたものでしたが、結果は「合併への期待」より、「合併の不安」の方が強く浮き彫りにされたのが、特徴的でした。

西濃圏域合併、「期待」より「不安」が強い

「合併の不安」は「区域が広くなり、きめ細かなサービスが受けにくくなる」が大垣市を含めて59.1%でトップ。次の「中心地域と周辺地域で格差が生じる」は、大垣市を除く9町すべてが50%以上になっています。その他「役場が遠くなり不便」「住民の連帯感が薄れ、地域社会の形成が難しい」など多くの項目で20%以上の不安を示しています。一方、「合併への期待」は「効率的な行政を進めることができる」40%、「道路や公共施設などの効率的な整備」25.6%ですが、その他の項目は10%台で、期待より不安のほうが強く現れたといえます。（図1・図2(裏面)参照）

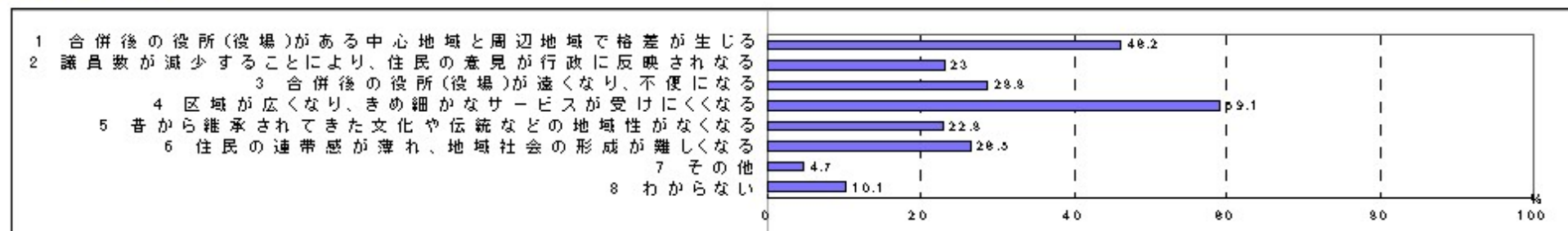
合併後の将来像は「福祉のまち」(裏面図3)

合併後の将来像について、「福祉のまち」を望んでいる人がトップです。大垣市は他市に誇れる「垣老」(大垣市老人医療費助成制度)があります。この合併で、この「垣老」がどのように扱われるか、注目されるところです。

すべての「協議内容」を公開せよ！

現在、事務方で3千数百項目の事務事業のすり合わせ作業が行われていますが、住民のみなさんが望む「福祉のまち」に応えるものになっているかどうか、一切明らかになっていません。よいことも悪いこともすべて具体的な情報を住民に明らかにし、住民の判断を仰ぐことが住民自治ではないでしょうか。

図1) 合併の不安



スポットOgaki、日本共産党に対するご意見・ご質問等はこちらへ

TEL 81-1383 <http://www.sasada-toyoko.jp/> e-mail: sanbal@sasada-toyoko.jp

図2) 合併への期待

- 1 市が主体性をもって独自の施策を実施し、地方分権に十分な対応ができる
- 2 子育て支援や介護保険など、新たな行政需要に対して十分な対応ができる
- 3 職員の専門的知識・技術の向上により、多様で高度な行政サービスが提供できる
- 4 経費の削減を図るなどにより、効率的な行政を進めることができる
- 5 広域的な視点に立ち、道路や公共施設などを効果的に整備することができる
- 6 財政状況が厳しさを増すなかで、財政基盤を強化することができる
- 7 各地の地域資源を連携することにより、観光・交流活動を活性化することができる
- 8 市の規模が大きくなることにより、対外的なイメージを高めることができる
- 9 財政規模の拡大によって、魅力的な施設設備・プロジェクトの実施が図られる
- 10 各地のスポーツ・文化施設など公共施設の有効利用と相互利用が進められる
- 11 生活実態にあった学校区の設定など、旧市町の境界にとられない圏域が設定できる
- 12 その他
- 13 わからない

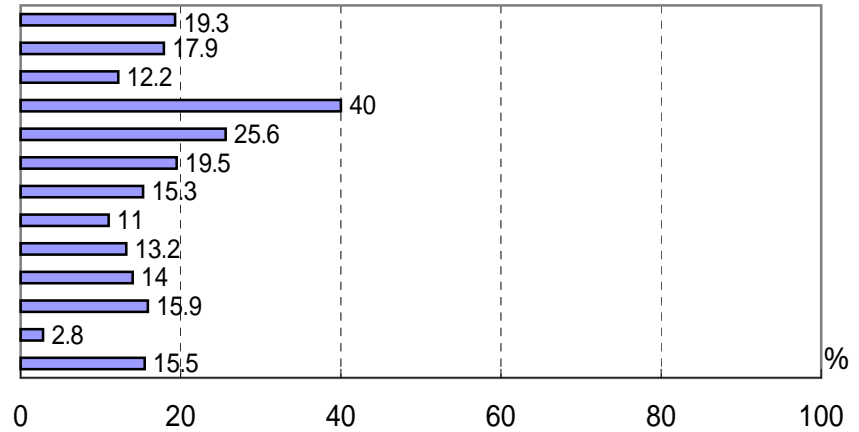


図3) 合併後の将来像

- 1 豊かな自然と農林業が共生する活力あるまち
- 2 史跡や文化財など歴史的資源を大切に、伝統文化を活かしたまち
- 3 工業・商業・サービス業などが活発で、雇用機会の豊富なまち
- 4 道路・上下水道・市街地などが整備された都市基盤の充実したまち
- 5 緑豊かな自然環境や快適な居住環境に恵まれたまち
- 6 自然災害や交通事故、犯罪の少ない安全なまち
- 7 高齢者や障害者など、すべての人が安心して暮らせる福祉のまち
- 8 保険医療や健康づくり施策が充実した健康のまち
- 9 保育所・幼稚園・学校が充実し、子どもたちが地域で健康に育つまち
- 10 文化・スポーツ活動などの生涯学習活動の盛んなまち
- 11 多くの観光客が訪れ、人との活発な交流がある観光のまち
- 12 ごみ減量や省エネルギーへの取組など、環境問題に積極的に取り組むまち
- 13 情報や通信機能の発達した高度情報化のまち
- 14 国際交流に積極的に取り組むまち
- 15 ボランティア活動、コミュニティ活動が盛んなふれあい豊かなまち
- 16 その他

